

視察研修に行ってきました



文教厚生常任委員会

平成26年10月29日(水)～31日(金)
大阪府寝屋川市を視察

ICTを活用した学校教育の取組み

2020年をめどに、全国の小中学校に一人1台の教育用タブレットが配られ、ICT教育が推進される計画であるところから、寝屋川市のICTを活用した学校教育の取組みについて研修を行った。同市は昭和26年に大阪府内で16番目の市として誕生し、合併、編入等を経て昭和41年に現在の市域となっている。面積24,7km²、人口24万人、世帯数108千の市は平成26年度の当初予算769億4千万円、教育費の予算は55億6千万円という規模であり、当町と比較参考が出来ないが、同市の教育行政とICTを教育にどのように取り入れ、活用しているかを研修した。特徴として、同市には12の中学校区があり、各区に2つの小学校があるので、計36の学校がある。平成27年度には中学校区内でどちらの小学校に就学するか学校選択制が始まる。



市民・保護者・教職員で教育の目標を共有するため「寝屋川教育フォーラム」の開催やキャリア年数に応じた3段階の教職員研修、先生のためのICT教育講座等が開催されている。確かな学力の育成のため、小中一貫教育推進事業、パソコン整備事業、TV会議関連事業、ICTサポート事業、少人数教育推進事業に取組まれており、教育行政重視の姿勢を感じた。(教育費の割合7,2%)

- * ICT化の状況：平成21年度に、全小中学校に電子黒板の導入、平成23年度に小学校5年生、24年度6年生、25年度3,4年生の全教室に電子黒板等を整備。各小学校にタブレットパソコン41台導入。
- * ICTを活用して授業が出来る教員(小)の割合77,0%(全国平均70,4%)、今後全ての教員が効果的にICTを活用した授業が出来るよう研修を進める。
- * 市の広報で全国学力・学習状況調査で全国、府との比較や、市学習到達度調査を公表されており、到達度調査において極めて大きな伸びが認められた。
- * H25～27の3カ年の整備計画で更に指導用ノートパソコンやタブレットパソコン等を整備される計画であり、ICT関連で1億5600万円の予算となっている。
- * 目標として全国学力・学習状況調査で全国平均以上をめざす。ICTを活用して授業が出来る教員100%をめざすとされている。

感想として

研修用タブレットパソコンを利用して初歩的な体験操作を行ってみたが、意外と簡単であり、子どもたちであれば極めて短期間でマスターしてしまうであろうと思われた。生徒にとって、授業が解りやすくやすくなる、書き込みで理解しやすい、子どもが考えを発表しやすく、課題を共有できる。教員としては授業の効率化、豊富な教材の提示、教材や情報の共有が出来るといった大きな利点があると感じた。

研修を通じ、ICT活用の必要性は十分認識できたが、大きな予算を伴うこと、更新費用も考える必要があり、共同利用や専門補助員の配置も検討する必要がある。

ICTの導入は日本全国の流れであり、大きな効果も出ているので、乗り遅れないことも大切であるが、教育現場の考え方はどうなのか、ICTに頼らない授業も大切ではないか。

目で見て覚える部分が多く、理解もしやすいが、過度に頼ることなく、考える力を育む教育を今一度振り返る必要があるのではないかと感じた。

まとめ

特徴と感想を列記しましたが、全国の小中学校に一人1台の教育用タブレットが配られることになれば、教員のICT活用能力の向上を急がねばならないのではないかと感じた。宝の持ち腐れになることのないようICT研修の充実、少なくとも電子黒板を普及させ、生徒も含めたICT教育への「慣れ」を推進して行く必要を感じた研修でした。



総務産業常任委員会

平成26年10月30日
奈良県明日香村を視察

薬草栽培の取組み

■ 研修目的

農業従事者の高齢化と担い手不足、中山間地農業の典型である経営規模零細さ等、社会的・自然環境的な要因から、我が町の農業環境は厳しい状況にある。その中において、「我が町の農地」の地理的な条件に適した新しい作目の調査・研究が必要と考え、薬草栽培に取り組む為の参考にする為。

■ 研修内容

奈良県明日香村集落営農組合「えいのうキトラ」

平成18年3月設立。組合員21戸23名、耕作面積60a。作付けは→水稻・黒大豆・コスモス・大和トウキ・など

奈良県では薬用作物の関わりは古く記録では推古天皇が大宇陀薬狩りを行ったという記述があり薬草が野山から採取されたことをうかがい知ることができる。当時の薬は宝物と同様に貴重なものであった。大半が中国からの輸入に頼り国内でも薬用作物の栽培が試みられた。このような歴史を背景に奈良県で薬草が栽培されてきた。しかし、近年では生産者の高齢化、生産性の低さなどで生産が減ってきている。

大和トウキの栽培について・・・えいのうキトラでは以前より薬草に興味を持ち新たな栽培品目を模索し、平成20年4月に福田商店福田氏、奈良県の指導のもと、阿部山地区で遊休農地を利用して、大和トウキの展示圃を作り、種の播種と苗の定植を行い、除草、追肥、排水対策、防虫・イノシシ対策などを実施。中でも除草、防虫対策には悪戦苦闘をした。平成23年からは榊まえちゅうの指導も加わり、良質、サイズの揃ったトウキ作りに取り組む。除草対策として敷き藁やマルチシートを活用し、農地については田や畑で実証し効果を検証した。

■ まとめ

とうきは平成19年度からやっておられるが今年が一番良い「とうき」が出来ているという事で、去年は収穫が殆ど無く毎年バラつきがあるようである。とうきは7年間やっておられるが儲かる事業ではないようである。理由として手間がかかり除草剤が使えないので草取りが大変である。県、村より補助がないと事業をやって行くのは無理であり個人では厳しく農事組合等で共同作業が適している。また、とうきをやって行くなら補助がないと厳しく軌道に乗るには最低5年程度はかかるという事である。

今後、町で取り組むには作付面積の規模、経営農家の人数、県、町からの補助など、また、薬草栽培に取り組んでいる先進地の視察を重ね、検討、研究する必要があると感じさせられた研修でした。



広報調査特別委員会

平成26年11月19日(水)
メルパルク熊本



町村議会広報研修会で山郷が“入選”

昨年11月19日、メルパルク熊本にて平成26年度町村議会広報研修会が開催されました。

初めての試みとして、各町村議会の広報誌を四人の熊大生による講評が行われ、「初めて議会だよりの存在を知りました。」「若い世代にも読まれる工夫が必要ではないか。」など、いろいろな意見を聞くことができました。その後、熊日新聞関係の三人の先生による審査と講評があり、なんと南関町議会だよりの「山郷(やまご)」が入選いたしました。山郷が発刊されるようになって二期8年と9か月になりますが、ひとえに二期8年、先達の努力の結実と感謝するところです。我々4人も、受賞の喜びと共に気持ちを新たにしました。

今後、我々16期の広報委員は、先達同様、町の「課題や将来への展望」に対し議会が向き合う姿勢や活動状況などを、町民の皆様との情報共有を目標に、さらに身近に感じていただけるよう努力してまいります。



町の情報宅配便



じょうほうたくはいびん

激励を受けて大人の一步!!

新年を迎え1月4日、南関町成人式が公民館で開催されました。新成人106名（117名対象）が参加し、家族や恩師らから激励を受け、大人としての一步を踏み出しました。式典は大里教育長の開式の言葉で始まり、一人一人の名前が読み上げられ、成人証書が手渡されました。少し緊張の面持ちの方も多く見受けられました。その後、佐藤町長の激励の式辞、金子選挙管理委員長からの選挙への参加を呼びかけ、酒見議長より来賓祝辞を述べられました。新成人代表者宣誓は原康大さんが「自覚と責任を持ち社会の発展に寄与することを誓います」と述べられました。その後お茶屋跡で全員での写真撮影がありました。



平成26年度・南関町「健康と福祉のつどい」 笑う門には福(健康)来り!!!

昨年の11月28日、うから館において、「健康と福祉のつどい」が開催され、大笑いしたり、大きくうなずいたりして大勢の参加のみなさんが熱心に受講されました。

うすま苑・陽光学園の太鼓の披露で幕が開き、第1部では、講師に向陽台病院・臨床心理士の植村照子先生をお迎えして、「元気な

こころと体づくりのヒント」と題して講演がありました。

中高年向けに、支える側から支えられる側へと役割の変化の中で、睡眠障害やストレスから「うつ」状態になりやすいことや、対処としては体を動かしたり、大笑いをするのが重要と話されました。また、一人で悩まないで周りの方に相談したり、受診することも重要と話されました。

第2部では、熊本県歯科衛生士会・山鹿支部の歯りきり隊による「うきうき歯つらつ・歯ぴいな暮らし」と言う、にわか劇が演じられました。肥後弁まるだしの演技に、大笑いの連続でした。その中で、入れ歯のかみ合わせが平衡感覚や頭痛のもとになり、非常に重要と感じました。会場のみなさんも楽しく、有意義な一日になったのではと感じました。



◀表紙の紹介 南関第4小学校どんどや

1月第3土曜日に、地域の方々を交えて行いました。

吉書き上げは字が上手になるように、子どもたちの書き始めをどんどやの燃

え盛る炎の中に入れます。

バザーでは、ぶた汁、シシ鍋、ぜんざいなど温まるものでお腹も一杯でした。

前議会だより(35号)発刊においてのお詫びと訂正 「間違いが多く、申し訳ありません!!!」

平成25年度決算を1億2,495万円の黒字と表示しましたが、正しくは1億2,149万5千円の黒字でした。お詫びして訂正いたします。(なお、歳入・歳出差引額は1億5,092万3千円となり、翌年度への繰越額を差し引いた額を実質収支額1億2,149万5千円と言います。)また、人権擁護委員の推薦で黒田則行さんの任期を新任と表現しましたが、正しくは、継続でした。お詫びして訂正いたします。

さらに、立山比呂志議員の一般質問で、教育委員会制度についての質問に、教育長答弁で、「教育総合会議は来年四月失効となる。」と表現しましたが、正しくは、「教育総合会議は来年四月執行となる。」でした。お詫びして訂正いたします。

議会日誌

10~1月

主なものを載せています

- 10月29日 } 議員全体研修
- 31日 } (研修地、大阪～奈良)
- 11月6日 { 熊本県町村議会議員研修
- { (益城町文化会館)
- 14日 総務産業常任委員会
- 19日 広報委員研修(熊本メルパーク)
- 20日 文教・厚生常任委員会
- 25日 { 全員協議会
- { (最終処分場エコア熊本視察)
- 28日 全員協議会
- 12月1日 議員研修(玉名振興局)
- 3日 議会運営委員会
- 16日 } 12月定例会
- 19日 }
- 1月5日 役場仕事始め式
- 15日 広報委員会
- 22日 { 全員協議会・全常任委員会・
- { 広報委員会

Topic! 1

南関こどもの丘保育園 幼年消防クラブ



1月10日(土)、町消防出初式幼年消防クラブに約50人に参加し町長観閲指揮者の大きな掛け声のもと、全員がきびきびとした動作を披露し大人消防団以上の動きで周りの観客に大きな拍手を頂いていました。規律訓練は、有明消防南関分署長さんより、指導を頂いていたそうです。

幼年消防クラブは、平成22年9月に結成し日頃から災害避難訓練などの体験学習を通して防災、防火に対する意識の高揚に努めています。

Topic! 2

エコアくまもと視察



町議会では平成26年11月25日米田地区に建設中のエコアくまもとを視察してきました。覆盖施設が完成し、工事も遮水シート等工事、雨水・地下水集排水施設工、管理棟、浸出水処理施設工、関連施設工と進んでいます。今年の秋には竣工予定です。学習を通して防災、防火に対する意識の高揚に努めています。

インタビュー

編集後記



南関町議会では、玉名郡選出の内野県議会議員(写真・正面右)の紹介で、熊本県が進める補助制度の勉強会に行ってきました。



「地域づくり夢チャレンジ」の二つの推進事業について説明を受けました。

地域おこしや町おこしの起爆剤として、全員期待しての参加でしたが、補助金交付要件の制約や審査があり、少し使い勝手の難しさを感じました。第一にやることは、地域や様々な組織で、やる気のあるリーダーを育成することが重要と感じた勉強会でした。(里モンプロジェクト等の詳細については、町経済課まで)

(本田)

編集 集(広報調査特別委員会)

- 委員長 本田 眞二
- 副委員長 立山 秀喜
- 委員 杉村 博明
- 委員 立山 比呂志
- 発行責任者 酒見 喬